

令和 2 年 7 月 13 日現在

機関番号：32687

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02180

研究課題名(和文) 夢の現象学

研究課題名(英文) Phenomenology on Dreaming

研究代表者

武内 大 (Takeuchi, Dai)

立正大学・文学部・教授

研究者番号：10623514

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、夢の本質構造として、自動性、圍繞性、超常性の三つを取り出し、明晰夢の本質構造として、さらに自覚性、鮮明性、コントロール可能性の三つを付け加えた。神経科学的、精神医学的研究により、夢は幻覚とは異なり、むしろ想像力の一形式であることが結論づけられた。しかし一方で、夢世界においては「準現在化が現在化に変容する」という原理が成り立つことから、夢を単純に想像力と同一視することはできない。

これらの本質構造は、インタビュー、歴史的文献研究(初期近代ヨーロッパの魔女や中世イスラム神秘主義における夢・幻視文化に関するもの)で得られた様々なデータと照合した結果、おおかた確認されたと言えるであろう。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第一に、市民科学やオープン・サイエンスの意義が重視される昨今の学問状況において、渡辺恒夫(研究協力者)は現象学的な夢研究を「誰でも明日からできる手づくりの科学」として構想しているが、本研究はその第一歩となりうる。第二に、夢の研究を現象学分野でここまで体系だった形で行なったのは本邦初のことであろう。第三に、これまで迷信、或いは空想の産物と思われてきた数々の魔術的・神秘的現象を、明晰夢の現象として解き明かすことによって脱オカルト化することができた。第四に、本研究で探求した明晰夢の導入法が、悪夢治療において有効活用できる可能性が浮上してきた。

研究成果の概要(英文)： In this study we extracted three essential structures of dreams, i.e. automaticity, surroundings, and para-normality, and added three essential structures of lucid dreams, i.e. self-consciousness, vividness, and controllability. From the viewpoint of neuroscience and psychiatry, it was concluded that dreams are different from hallucinations, which are forms of the imagination. Dreams, however, cannot simply be equated with imagination because the principle “every re-presentation is transformed into the presentation” holds in the dream-world.

These essential structures were predominantly confirmed by a comparison of data obtained from interviews and the study of historical records (on the dream-vision culture of European witches in the early modern period and Islamic mysticism in the middle ages).

研究分野：現象学

キーワード：夢 現象学 明晰夢 幻覚 悪夢 睡眠麻痺 神秘主義的幻視 魔女の幻視

### 1. 研究開始当初の背景

従来の現象学研究において、夢の問題はほとんど扱われてこなかった。管見の及ぶ限り、夢の現象学を展開した人物は、フィンク、サルトル、カイヨワ、ウスラー、トンプソン、渡辺恒夫(研究協力者)、現象学的精神医学の分野を含めても、ピンスワンガー、ボス等々、ほんの数える程度しかいない。武内大(研究代表者)も、かつて博士論文の中で、フィンクの夢論にわずかながら触れたものの、具体性をもって十分展開することはできなかった。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、第一に夢の本質構造を明らかにすること、第二にその特殊形態である明晰夢の本質構造を明らかにすること、第三に夢見の制御法、すなわち明晰夢の導入法を確立することにある。通常、夢というのは、ぼんやりとしていて想起が困難なため、その本質分析も決して容易ではない。しかし明晰夢に習熟すれば、夢世界をじっくりと観察できるうえに想起もしやすくなる。つまり、第三の目的は、第一・第二の目的を遂行するにあたって「方法論」としての役割を担っているのである。

### 3. 研究の方法

以下の4つの部門に分けて研究を行った。

#### a) 現象学理論部門

基本的には、読書会等を通じて文献の読解作業を行った。まずは渡辺恒夫の著書『人はなぜ夢を見るのか』を叩き台として議論する事からはじめ、ついでベルネ著 *Conscience et existence* の訳読会を行ない、さらに、ここ数年「夢」の現象学的研究に精力的に取り組んでいるイタリアの現象学者ジッペルの論文「夢見の意識：現象学からの寄与」を読みつつ議論を重ねた。

#### b) 神経現象学部門:

例えばトンプソン、ソロモノヴァ、ホブソンをはじめ、夢の神経科学に関する重要文献をいくつか読み進めた。その際、小林聡幸(研究分担者)、大塚公一郎(研究分担者)、西多昌規(連携協力者)が、専門外のメンバーに専門用語をわかりやすく解説し、多くの有益なデータを提供した。本研究では、とりわけソロモノヴァの方法に倣い、夢の認知構造を、単に脳神経との関りのみならず、4EA 認知、すなわち(1)身体化された(embodied)、(2)埋め込まれた(embedded)、(3)拡張された(extended)、(4)行為的(enactive)、(5)情動的(affective)認知という観点から全体的かつ統合的に捉えようと試みた。ソロモノヴァが主に物的身体の夢世界への生理学的影響作用に考察の重点を置いたのに対して、本研究では、夢世界内部における夢身体の行為と環境の相互関係、さらには明晰夢世界そのものの現れを可能にする儀式的な身体的行為と環境設定に注目した。

#### c) 歴史文化研究部門:

明晰夢に相当する現象の記述は、魔術や神秘主義に関する古典的文献の中にも数多く見出される。武内大は、初期近代のスコットランド、イタリア、東欧における魔女の夢・幻視文化の研究を行った。小野純一(研究協力者)は、アラブ人の思想家イブン=アラビーの夢・幻視体験を「想像世界(mundus imaginalis)」論という観点から考察し、さらにその成果を、渡辺恒夫が案出した「夢の物語論的現象学分析」という方法論に基づいて分析した。その際、大塚公一郎が、幻視の文化性に関する精神病理学上のデータや見解を提示した。

#### d) 現象学実践部門:

この部門では、夢体験の一人称的研究とインタビューによる研究を行った。渡辺は、夢記録をイ

インターネット上に公開することで、夢体験を公共的にアクセス可能なデータとして扱えるようにした。インタビューの方法については、主にラングドリッジの著作『現象学的心理学への招待』を参考にした。武内大の知人から、スノーボールサンプリング法により体験者を探し出し、形式的には「半構造的」、内容的には「個性記述的(ideographic)」なインタビューを行った。インタビューの具体的内容、方法論、倫理対策の検討、及びデータ解析は、武内大、大塚公一郎、渡辺恒夫との連携協力によって可能となった。インタビューの実施は、渡辺恒夫による研修指導のもとで武内大によってなされた。

#### 4. 研究成果

##### a) 夢の本質構造

武内大は夢世界の本質構造として以下の三点を取り出した。

自動性：イメージが、主体の意志とは独立に、勝手に立ち現れてくる。

囲繞性：イメージが、主体を囲むようにして一つの世界として現れる。

超常性：現実世界では起こりえないことが生じる。

特に に関して言えば、夢は幻覚とどのように異なるのが問題となる。この問題を現象学的な一人称的考察のみで解決するには限界がある。そこで神経現象学の研究成果に注目してみる。トンプソンは、ホブソンが夢を幻覚として捉えたことに異議を唱え、夢を「想像力」の一形式として位置づけた方が、神経科学から得られたエビデンスにフィットすると述べている。ソロモノヴァもまた、夢を単なる脳の産みだした幻覚ではなく、「自発的な身体的想像力のプロセス」として捉えている。われわれの研究チームでも、「夢と幻覚は厳密に区別すべき」という結論が得られた。小林聡幸は、レジスの夢幻症やマイアー・グロスの夢幻様体験型という夢に似たいくつかの体験例を提示しつつも、それらを幻覚の一端に位置付けることには疑問を呈している。さらに大塚公一郎は、ラカンの構造論的精神分析の立場から、非定型精神病における体験が、夢の体験とは類似するものの、統合失調症性の幻覚体験とは質的に異なると結論づけた。

しかし他方で、夢を単純に想像力と同一視することはできない。渡辺恒夫は、夢世界においては次のような原理が成り立つことを主張している。「想起・予期・空想といった「思い浮かべる意識(準現在化作用)」は、現実世界においては、「思い浮かべられている当の対象像」と同時に「思い浮かべられているに過ぎない」という気づきが伴われ、意識が二重構造をなしているのに対して、夢世界ではその気づきが消滅し、意識構造が一重になり、思い浮かべられている対象像は、「現に知覚し体験したもの」と同じになってしまう。」渡辺恒夫は、このような原理への洞察を主軸に据えつつ、主にジオルジの記述現象学、レイコフのメタファー論、ユングの夢分析などを組み合わせ、「夢の物語論的現象学」という独自の方法論を打ち出した。

##### b) 明晰夢の本質構造

明晰夢においても、先に挙げた三つの本質構造は妥当する。武内大はさらに明晰夢に固有な本質構造として、以下の三点を取り出した。

’自覚性：夢を見ていることを自覚している。

’鮮明性：現れてくるイメージが知覚に劣らないくらい鮮明で生氣溢れるものである。

’制御可能性：意志による夢世界の制御が可能である。

このうち、’と’に関しては、通常の夢以上に想像力に近いのに対して、’に関してはむしろ知覚(幻覚)に近い。

明晰夢の問題を考察する上で、一人称的体験、歴史的文献、インタビューの三つからデータを収集した。武内大は、歴史文化研究部門の一環として、或いは4EAの「埋め込まれた認知」とい

う観点から魔女の夢・幻視文化について研究を行なった。初期近代ヨーロッパの魔女裁判の記録には、主に「魔女の襲撃」と「魔女の妖精国探訪」という二系統の体験談が報告されている。一つは、夜に寝床でうとうとしていると、寝入り端に突然魔女が上に乗ってきて、胸を圧迫し、首を絞めてくるという体験である。こうした体験は witch-riding、wizard-pressed とも呼ばれている。もう一つは、夜になると動物に変身して、妖精の国へと飛んでいき、そこで妖精の王と女王に忠誠を誓った後、宴会に参加し、帰り際に病気の治療法を教わるといった内容の体験である。前者の場合、魔女は体験の中の登場者であるが、後者の場合、体験内容を裁判所で報告した本人が魔女と看做されることになる。ピーヴァーやグッドエアは、歴史学に神経科学の知見(とくにアラン・チェインの研究成果)を導入し、魔女の襲撃を「覚醒悪夢」、魔女の妖精国探訪を「体外離脱体験」として解釈している。ラバージが言うように、体外離脱体験を明晰夢の一種と見做すならば、魔女の妖精国探訪は、明晰夢で見た体験だったと解釈することができる。空中飛行、変身といった超常的な現象は、通常の夢の中でもときおり見られるが、明晰夢においては、こうした現象が極めて鮮明かつリアルな形で生起し、しかも夢世界における諸客体の変形、出現、消滅を魔術師のように制御することも可能になる。本研究で行ったインタビューでは、さすがに妖精国探訪の報告はなかったにせよ、なんらかの非人間的存在者との邂逅、空中飛行、通り抜け、知恵の伝授などのモチーフは、具体的内容の差こそあれ、少なからず認められた。もちろんまだデータが圧倒的に不足しているため、今後なんらかの形でインタビューを続けていきたいと考えている。

#### c) 明晰夢導入法の確立

興味深いことに、覚醒悪夢と体外離脱体験ないし明晰夢は、「睡眠麻痺」という共通の生理学的基盤によって支えられている。前者は「恐怖」、後者は「至福」という情動と結びついている点で対照的である。これら二つはいかなるメカニズムに基づいて分岐するのであろうか。悪夢の恐怖を至福へと転換するスイッチのようなものは見いだせるのであろうか。西多昌規は、明晰夢を悪夢の治療法として有効活用する可能性を模索し、いくつかの明晰夢導入法を提示した。ソロモノヴァもまた、悪夢を明晰夢や体外離脱体験のようなポジティブな出来事へと変容させる方法を提唱している。彼女によれば、この変容は、睡眠麻痺を「観察」することによって可能になるといふ。

明晰夢導入法については、すでに多くの事例が学術論文でも紹介されているが、スタンブリーズ、エアラッヒャーは、MILD と WBTB の組み合わせがもっとも効果的だと主張する。つまり入眠後約 5 時間後に一旦起きて、数分してから再び床に就き、「次に夢を見るときは必ず夢であると自覚してみせる」と強い自己暗示をかけるという方法である。われわれは、この技法を一つの柱に据え、さらにインタビューから得られたさまざまな技法のメカニズムを科学的に吟味し、ヨーロッパの魔女やイスラム神秘主義の夢見制御法を、時代や地域に適した形にアレンジしつつ、今後独自の明晰夢導入法を開発したいと考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 大塚公一郎	4. 巻 22
2. 論文標題 文化精神医学史と優生学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 精神医学史研究	6. 最初と最後の頁 53-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林聡幸	4. 巻 7巻4号
2. 論文標題 高齢者の幻覚妄想状態の鑑別と分類Depression Strategy	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Depression Strategy	6. 最初と最後の頁 11-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林聡幸	4. 巻 36巻
2. 論文標題 臨床家はスピリチュアリティとどう向き合うべきか	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 栃木精神医学	6. 最初と最後の頁 16-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 守田優子 西多昌規	4. 巻 12
2. 論文標題 睡眠負債とアスリートのパフォーマンス	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 睡眠医療	6. 最初と最後の頁 399-402
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺恒夫	4. 巻 17
2. 論文標題 他者になる夢の現象学的解明：フッサー志向性論に基づく主題分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 質的心理学研究	6. 最初と最後の頁 66-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野純一	4. 巻 4
2. 論文標題 意味産出の場としての身体：イブン＝アラビの身心未分論と破局に向かう自覚	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 スポーツロジイ	6. 最初と最後の頁 134-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野純一	4. 巻 101
2. 論文標題 無限と超越：無を無化する唯一性の直観について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 専修人文論集	6. 最初と最後の頁 91-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 0件／うち国際学会 1件）

1. 発表者名 武内大
2. 発表標題 妖精王国の謎：明晰夢の現象学的分析
3. 学会等名 日本質的心理学会 第15回大会会員企画シンポジウム「夢の現象学：学際的アプローチ」（渡辺恒夫、岡田斉、武内大、小野純一、麻生武）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武内大
2. 発表標題 星の魔術：現象学的元型論の展開
3. 学会等名 立正大学哲学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武内大
2. 発表標題 魔女の襲撃と飛行：睡眠麻痺の現象学
3. 学会等名 心の科学の基礎論研究会（第84回）(シンポジウム「夢の現象学」 提題者:岡田斉、渡辺恒夫、武内大)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武内大
2. 発表標題 Phenomenological Metaphysics of the world: Eugen Fink 's Meontic
3. 学会等名 International conference: What is Phenomenology? Ideas from East Asia
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大塚公一郎
2. 発表標題 統合失調症における「生殖・世代」主題と「女性 への一推進」または「例外 への 推進」 統合失調症慢性形態における妄想発展のメカニズム
3. 学会等名 日本ラカン協会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大塚公一郎
2. 発表標題 文化精神医学史と優生学
3. 学会等名 日本精神医学史学会シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小林聡幸
2. 発表標題 誰も語ってはならぬ：精神療法におけるスピリチュアリティ
3. 学会等名 日本精神病理学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 稲川優多、小林聡幸
2. 発表標題 身体容器としての衣服：体感幻覚に衣服による包み込みが有効であった統合失調症
3. 学会等名 日本精神病理学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西多昌規
2. 発表標題 アスリートの不眠
3. 学会等名 第43回日本睡眠学会定期学術集会シンポジウム
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 渡辺恒夫
2. 発表標題 漱石『夢十夜』の現象学的分析
3. 学会等名 日本質的心理学会 第15回大会会員企画シンポジウム「夢の現象学：学際的アプローチ」(渡辺恒夫、岡田斉、武内大、小野純一、麻生武)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡辺恒夫、田中彰吾、村田憲郎、渡邊芳之、直江清隆
2. 発表標題 もう一つの心理学史を求めて：近代心理学と現象学
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会公募シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺恒夫
2. 発表標題 夢世界の心理現象学的探究
3. 学会等名 心の科学の基礎論研究会（第84回）(シンポジウム「夢の現象学」 提題者:岡田斉、渡辺恒夫、武内大)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺恒夫
2. 発表標題 Phenomenological elucidation of dreams based on intentionalities: A new horizon for Husserlian analysis of dreams
3. 学会等名 国際理論心理学会 (ISTP) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小野純一
2. 発表標題 イブン=アラビ-的夢 = ヴィジョン体験の基底構造
3. 学会等名 日本質的心理学会 第15回大会会員企画シンポジウム「夢の現象学：学際的アプローチ」(渡辺恒夫、岡田斉、武内大、小野純一、麻生武)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野純一
2. 発表標題 スフラワルディーによる無限の理念について
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 編著者：Giovanni Jan Giubilato, 共著者：武内大 etc. 担当箇所：Phenomenological Metaphysics of the World：Eugen Fink's Meontic	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Traugott Bautz	5. 総ページ数 294
3. 書名 Vitality of Phenomenology	

1. 著者名 西多昌規	4. 発行年 2018年
2. 出版社 診断と治療社	5. 総ページ数 246
3. 書名 睡眠障害とスポーツ スポーツ精神医学	

1. 著者名 渡辺恒夫、三浦俊彦、新山喜嗣、重久俊夫、蛭川立	4. 発行年 2017年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 238
3. 書名 人文死生学宣言：私の死の謎	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大塚 公一郎 (Otsuka Koichiro) (00291625)	自治医科大学・看護学部・教授  (32202)	
研究分担者	小林 聡幸 (Kobayashi Toshiyuki) (70296101)	自治医科大学・医学部・教授  (32202)	
研究協力者	渡辺 恒夫 (Watanabe Tsuneo)		
研究協力者	小野 純一 (Ono Junichi)		
連携研究者	西多 昌規 (Nishida Masaki) (10424029)	早稲田大学・スポーツ科学学術院・准教授  (32689)	